



ゆう き うつく じょおう 勇氣ある 美しい 女王 エステル

バビロン帝国が歴史から姿を消すと、メデアとペルシャという、新しい国が生まれます。アハシュエロス王が世を治めていたころ、モルデカイという名のユダヤ人が首都のスサに住んでいました。エルサレムがバビロニア人に破壊された時、モルデカイの家族はスサに引っこして来たのです。モルデカイには、両親が亡くなったために自分の養女になったいとこのエステルもいました。

このころには、ユダヤ人の大勢がエルサレムにもどっていましたが、モルデカイやその他のユダヤ人はペルシャにとどまりました。ところが、ペルシャにいるユダヤ人にとって、状況は良くありませんでした。王様の大臣であるハマンが、ユダヤ人を滅ぼそうと、日ごろからたくらんでいたからです。

けれども神様には、ご自分の民を救うための、あるご計画がありました。それは、強大な軍隊によるものではなく、若いユダヤ人女性の愛と勇氣によってでした。彼女は、ハマンの悪だくみをあばき、ユダヤ人たちを救うために、自分の命を危険にさらしたのでした。

エステル記には、ユダヤ人孤児がペルシャ女王となった、わくわくするようなお話が書かれています。読んでみましょう。